

Ex/68/A
Doc 5/70

口供書

中華上海

一九四一年（昭和二十六年）五月廿日

私、名前ハ、三一才工二工七、トトニ共軍通信隊二等准士官アリ。私ハ、アラシ方面共軍砲兵隊才一五野戦聯隊付、通信隊指揮事ヲサタ下士官アリ。私ハ、一九四三年（昭和十七年）二月十五日、シノガホ山要塞、引渡、時捕虜トナリ。

一九四三年（昭和十七年）十月、私ハ、吳玉砲兵隊才八〇計、騎車聯隊、吳玉砲兵隊才一五五野戦聯隊、吳玉砲兵隊才一四野戦聯隊及じ要塞通信隊才十二印度師団、約千三百名、兵隊上共二二六名、此波止場デイタクアド丸ニ乗ル。私達ハ日本人、要求シテ未タ所謂軽仕事ハ化だニモ道當テ十人連中、一團于アタ皆下此。イタクアド丸ハ五十人、古舊物船ヲ製作者、記録板ニヨレバ一九〇五年ニ建造サレタモニアタソレハ不潔テ蚤ヤ虱ヤ多々私カヘシラレテキタ夕船食、明ラカニ前ニ馬カ牛コ運ブニ使ハシタモニアタ夕膳ヤ床ニハ乾イタ排泄物ガハキテナリ。三日内、私達ハシニがカル、港ニ碇泊ミテサタ。私ハ、三ナヤドニ二ナヤド位、云可、船幅ニ五七人、兵士共ニ諸々スコシテナリ。我々、食物分量面ニ少々、野菜ガ浮キテ中水、木ノ才汁、約半、ハシテトツツク、即飯ヲ一日ニ朝上晩二回テ晝ハ御飯ダケナリ、ナシテ食ヲカ支給サタダテア。唯ニ飲料水ハ塩カラクテ私ハ何ケカ莫ニ潤ニタ海水、

NO 2

臺灣、基隆ニイテカラ私連ニ立野駆隊ト、計駆車駆隊ヨリ、分遣隊ハ汽車二乘セアレ端
吾一向ツタカソコテ雨中急し道路ヲ、全瓜石ニ五時間、弧口三行進アリ。私連ハ、道程向中
住民、嘲笑下ニ曝けアレ警戒兵隊折々し跡乙シ、兵隊童ハ落伍尚無理二歩干続サセラレ私、通
信分隊、仲間一人クリスバ半ハ運アレカレキベ
トカツ。彼、次日死ナシカフ、二ヶ月前元
ト多ク、兵隊童が死ナシ、ソノ下十人ハコ、行進
直接、私因テ死ナシト私、主張スル、全瓜石、收
容所テハ住居ヨクシタガ待遇ヒトカツ。毎日毎日
殴打残酷行厚、渠流テ、總テ、人かナヨシトニ
タコトカラ行多ク。私自身七二日間二九回モ殴レタ。

Doc 5/70

様ニ思レタ。喉が喝一千人が狂ニカウタ。私連ハ、船艤ニ監禁サレテ水槽マテ行クコトが出来
ナカツ。便所、設備ハトイセテアシタ。最初ハ主
要名ニタ、三四日無ク後ニハツニ増サレタ。ソレハ木
造造リ、槽テイ、モ排泄物一杯ア不潔ナ然能ニアリ
曳カタサニタ。兵隊童ハ一度ニタ、一人宛ニカ便
所ニコトが許サレズ下痢ト赤痢カハヤツテヰタ、
ア病氣ニカツテナタ兵隊ニトツテコトハ本当ニ吾
病アシ。沈鬱、設備ハトク統海カハジマツテカ
凡ノ一日二時間位甲板ヘ上ルコトヲ許サレタノ、
兵士ガコノ旅行中にトイ状態、タメニ事實失テミマ
タ。

臺灣、基隆ニイテカラ私連ニ立野駆隊
ト、計駆車駆隊ヨリ、分遣隊ハ汽車二乗セアレ端
吾一向ツタカソコテ雨中急し道路ヲ、全瓜石ニ五
時間、弧口三行進アリ。私連ハ、道程向中
住民、嘲笑下ニ曝けアレ警戒兵隊折々し跡乙シ、
兵隊童ハ落伍尚無理二歩干続サセラレ私、通
信分隊、仲間一人クリスバ半ハ運アレカレキベ
トカツ。彼、次日死ナシカフ、二ヶ月前元
ト多ク、兵隊童が死ナシ、ソノ下十人ハコ、行進
直接、私因テ死ナシト私、主張スル、全瓜石、收
容所テハ住居ヨクシタガ待遇ヒトカツ。毎日毎日
殴打残酷行厚、渠流テ、總テ、人かナヨシトニ
タコトカラ行多ク。私自身七二日間二九回モ殴レタ。

Doc 5170

No. 3

松達、收容所ハ、一期間中、嫌惡政策、ナセアルコル、
然ニ。松台湾、ズベテ、收容所カラ未タノタニ会ツタ
ガコ、政策ハコ、收容所アモヤシタフニ。

本連ハ一九四三年(昭和十七年)十一月三十日カラ金瓜石
銅鉱山ナ仕事ア開始。鉱山、中ナ、鉱能、人見ナケレバ
信信シラレナリ程モ、アシタ。採鉱所ハ載慢テナリ
程暑ク或場所ナハタタミ命固ニカ傷亡ナリラス
全般支柱ナク危死異アシタ。何等予告ナ三發破壊
ヨリ松達、アセテシ煙火吹消ナシニマツチヲ持ツコト
アシテナカジタ、テコタメ名クノア政起シタ。

此、鉱山ニ傷亡ナタ久人全般傷痕ヲ持ツテ牛ヒ云
ツテモ過言デナキ。私モ數回怪我ラニテ或時、足が岩、
クツクツ下下ナリ今アモノノ痕が残ツテ耳也。朝、午後、
アヒ水が低キ大井カラ漏リ余水溝上地面、穴ハキダニナ
リテ多ク人か木ハ落干ニ一人ハ骨骨ヲ折リ他ニ七手
足ヲ折シタ者多ク。

松達、身支度ハ最初、相當三ヨカラ厚紙、
アセナリ燈ニゴム、地下足袋(ゴム靴)アリ。足袋ハ約
一月位ハモツタ。帽子ハ酸味アル水ニツカッテ忍テ休目二丁
ツク。ソニドキモ駄目テシテカラ樂月モ代リガ無カシタ。松
達ハソフト帽カ或ハ全然何モ被ナシ。定ハ跳躍カ或ハ
木ヨリマキケタス、ア衝力サレタ。松達ハ採礦所ニイクニ
七時半、收容所ヲ出テ行進ニテ頂上ヨコ工子山、向側
約八、三段モア此階段ヲ降リ約一マイセ半、危險十地
下道、特々或節分ナハ膝ア水が出了ナリナスケノレ

Doc 5170

フ岩ダム、支柱ナホイ溝ノ地下道カニ更二八百、
 階段ヲ降リテ仕事場ニ行ク、テニシテ松達ハ仕事九時
 二時メ晝食二ハ一時間、ノルノリ冷野菜、弁当ヲ食べ午
 後一時カラ午後三時迄働く、心口ニ登リ道ヲ收容
 所ヘテ登リテアル。松達、取調べし検査サシタ後六
 時頃解散ニシタソレカラ松達、次、朝用意ニシテニ
 神アシタリ洪濶ヲミタ夕食ヲ食ヘネバナカツ。食
 半ハイント、水ノボウ野菜汁ト飯テアル。
 シカラ八時ニ終、點呼ガアリ九時ニ消燈サシタ、一九四四年
 開和十九年、終境新ニ地下道カ外、階段ヲ避
 ハケア收容所カラ掘リ下ヒテカニ云等、然ヨクナリ
 松達、午後四時半迄三席一シヨウニシテ、
 地下道ニハ惡意ヲ藏スルが如キヤノガアリ上側ト底
 上ニ銅鉄、扉ガアリ。台灣ヘドテカラ松達ハ老ニアリ
 兵ガ侵寇シテ、ニ用ジコメラシテ殺サレル者アリト
 トヲ知、タ、鞍山カラ硝酸ガヨ目的、タメニ取ツテ保管
 サヒアリテアル。鞍山中ア松達ガ充今ニ一生ヤメ
 伊働カカタリ言ヒタ仕事ヲ完成ニシカツリスルト
 モウキマツタウニドイ殴打ヲサシタ三時二時並ハサ
 レテ仕事ヲ終ヘナカツ者ハ殺ラシタ。彼等ハ天井ニシ
 テキル鉄管頭上ニ支ヘセラシて類トハギ取乙
 て殴ラシ。松達ハハニ、約三ノトテ約一五ノ十
 厚リ、柄ア革ウタクコノ体四割残忍テ全ノ不法
 也、久々命セラタ大量、仕事ハ假令松達ノ健康
 フア、モ不可能ナ程テ、タ松達、健康状態ア

No. 5

Doc 5190

ハソノノ身体的不可能ノアリテアリ。私自身は、
我忍耐殴打を見テ三日自分で殴打レタコトアリ。私
殴打シテ氣絶三地面に蹴飛ハサシタ人々の死傷者十数人。
私ハ腰痛ヲハマリ柄テ二回殴打シタコノ殴打ノ事件
にナクナ私地面ニウチ倒サレ一時目眩ニテモハム。私
ハ今朝モドウテソナコトヲニタカロカコナリ。二十九日
殴打公ヘテ錦山ニヤトベキ夕日本人に台湾全
未長言リサレタコアル。

ヨコテノ取扱は長イ徒步上登攀氣温、要火薙ノア
ソイ食糧、總テ私達、向ニ病氣、不因トナリ。ノ今朝
至テ八十名モ死ニ。八名が錦山中ノ段サレ一人
斜木構中ノ落ナタクノ脊骨ヲ折テ其後死ニ。
錦山ノ死ニ不甚ナシタシ久人、實數ハ五等半經
ツテ判明ナリ。アラウコノ不潔上塵ト接シ錦山
重労動が直接引因ナリ五等ア今尚多く今此ニ
アレトシテモ過言テカラウ。結核罹患者多シ
多シ。為多く人々が今更ニ着病サレテ有ル
アル。

送來、頼ハズレト非常ニ足リカツメ。ノニ、當
本軍カラ支給レシ七、八多く、病人ニ有ツニハ全ノ
不充分アリ。捕虜トナリテ半日ニアリカ。素手手
刀ヲ、槻、供給ハ久シ三度シカツカシタ。槻木が空之合
收容所、要至將校が自命タリ槻木置、ハトナリ。ア
ラ申出テ許万サルカ。ノ、槻木非常ニ劣等也
タ。

NO. 6

Doc 5170

日本軍、衛生隊員八百名又病人三百名、假
アミツカタハ只倒レテ病院患者二十人アド位
長ノ傷ケルカトイ事多ク松子アシ。鉱山内二八應
急手当、設備七医療看護人七十人一九四四年昭和
十九年四月ニテナリ初十二人、医療看護人か不見分
十支度ヲニテ凡ハ三百人モ牛毛傍勧者、一田ニ加テ未
ノニシテハ傷ヲ三タ人、鉱山内二殘サレ行シナリ足
ハ時六敵時同日又或時ハ三時二作業隊、帰ル時テ
テ放ツテ置カシム。

久ベテコノ殴打ヤ作業状態ハ二八收容所長ニ知レ
テ居リ台灣ニ於ケル最高軍事當局者董二元知レテ
ナニニ遇ニテ長向鉱山内ニ傷ナリ丙氣、火炎、
他、收容所、健康十モト交代サセルトノ改策アリ
久シテ台湾内一居夕捕虜達全數此、銅山、大竹
ハ和テ牛儿。私台灣内、他久テ、收容所力素多モ、
ト話スコトガ出来ラズコト、收容所モ其狀況無力タリ、才三
屏東收容所ハラリヤ地帶ニアリ敵病多々多々
今北寧。

一九四五年(昭和二十年)五月半軍上陸、處置が非常
ニ切迫三十日ナリ鉱山閉鎖サレ松達、收容所ハ三
班別テコト、ハ移轉シテ台北カウ金ヶ瀬、
ナクミードニ於ケル鐵道、終点カラ八里寮、森林、道ヲ
行テアツコト、狀態セビドカ、且食物最低
一日二六グラム、干半斗干多謀アツコト。

1905.5.10

コ、收容所建テル爲、總干モ、即チ木材屋根
瓦竹や草ハ周圍ノ密林カク人ケテ取ニスバナフナカ、
食糧材料、他必需品アハツル、道路ノ整
相当重懲ニテサタ病ハニコツテ運バレバナラナカシト。
私達ハ最大限度ニ压迫リ日ノ本カラ日、ハリマテ衝キ、
苦シテラレ打々レ蹴ラレ一定日マニ、收容所建
テ終ルタニ衝カサム。」收容所一カト七十屋ダク
ガ建テ終ルト何干トイフ甘諸ヲ耕作不トク狂ヒシミ
タ計画が始マフシタ。巨大地域ヲ威日時マニ開墾シ
植附ケレバナカシタ。ソ時日本ニ取ツテ競争が不
利ニ進展シ、アリ爆撃モジドリ一般、食糧不足、
多私達警戒兵達、態度ハ毎日堅ク反抗的ニ、
收容所、將校童主援助サレ煽動サムニ毎日彼等ハ
私達ヲ殴リ辱待テ。アーテルスサラント、行ラレバ、
アリニ伍長領ヲ余リドク金、柄テ殴レタテ氣
狂ヒテミシムコ、收容所生活、終ルマニコ、過半數、
人ヒドイ待遇、多氣がヘンナテキタ。コテ二人死ニ
皆病氣テ自方ガヘタ。終リニハ私、自方ハ平常十不
二六木下テアルニセスト、四木下二十シタ。

松達ハ西元年明和二年八月廿七日ニコクノラ出
テ台地ニ向シタ。斬草ハ終ツタカ病人ヲ運バ用意ハサ
レタカタ。私達ハ自分ハ彼等ヲ竹、擔架ニセテ運バ
バナフナカシタ。コ、焼キツコウ十日、中ヲ歩ケヌ人々ヲ
餓ニテ密林ヲ下ル心コニ旅行、垂夢テアシテ旅

Doc 5/70

行々タメ二人が死んだ。彼等は「桜山」に到着二日後
立ア山。此、恐口二旅ハ彼等、死ヲ早メタア。八
月廿八日 赤十字供給品、空中投下多三人が死
立人重傷十六人輕傷十人出三タノが最後、平イ吾二
ア。九月五日二松他連中共アカリカ海軍二枚
マニラ連レテ一九四五年(昭和二十年)十一月二十
日、私家へ帰ヘタア。

私死テミタ友達及ビキテサル歟友達三代シテ右
暴行責任アル人々が裁判サレテ此種ノ罪が再び
命運行ハシテナシト他一人ニ訓戒ナリ
ヨウナ訓ナリトヲ許ヘルセア。